



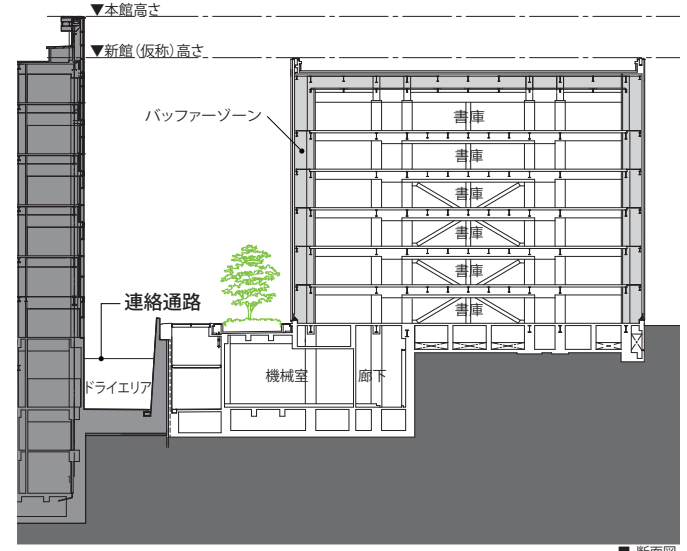
北西からの外観イメージ

■計画概要

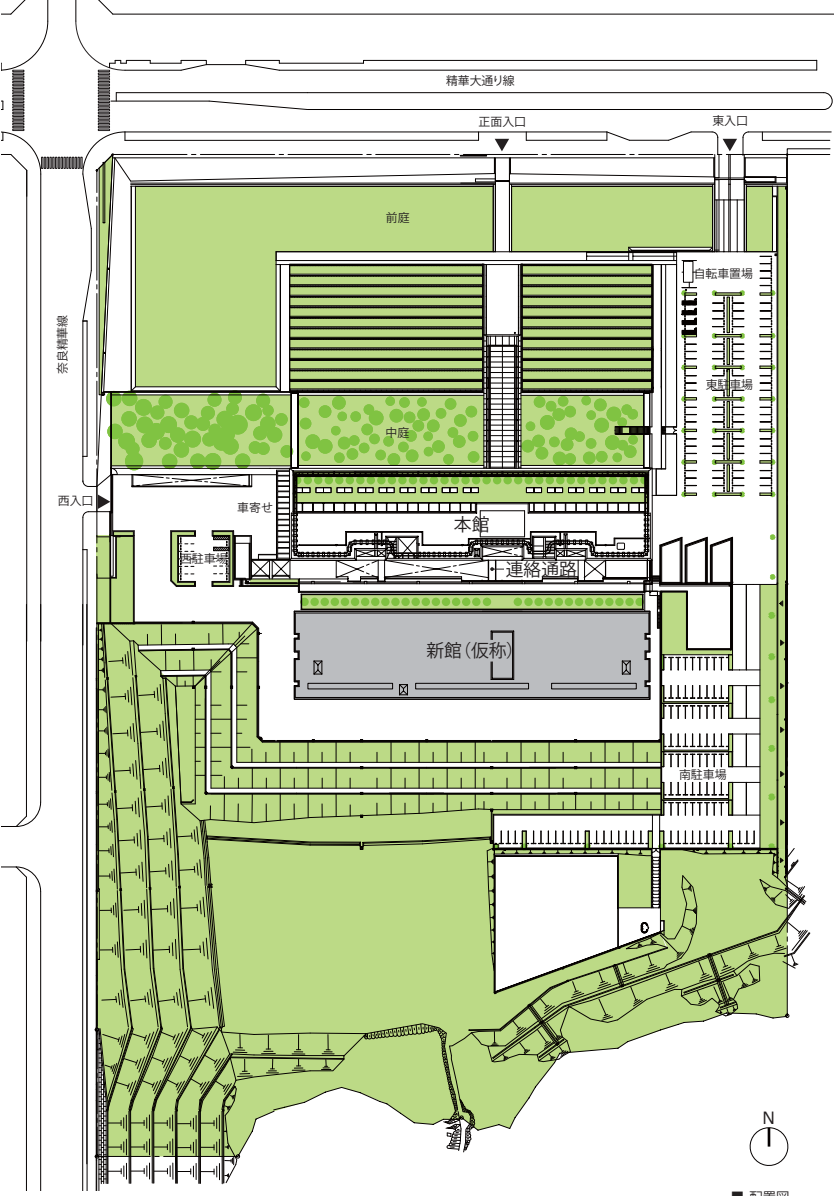
京都府域の関西文化学術研究都市にある国立国会図書館関西館に書庫を増築整備する計画です。現状の敷地内に建設用地を造成整備し、後世に残す資料を収蔵する書庫を3段階に分けて整備する第1段階の事業です。東京本館の収蔵能力の補完、出版物の大規模収蔵及び分散保存という関西館の基本機能を十分発揮するために、機能面、安全面、環境面、景観面の視点からバランスの取れた高機能な書庫の実現を目指しています。また、本館との景観的な関係や将来的な段階整備に配慮した計画にするとともに、膨大な収蔵物の集積を感じることができる空間づくりとしています。

■敷地概要

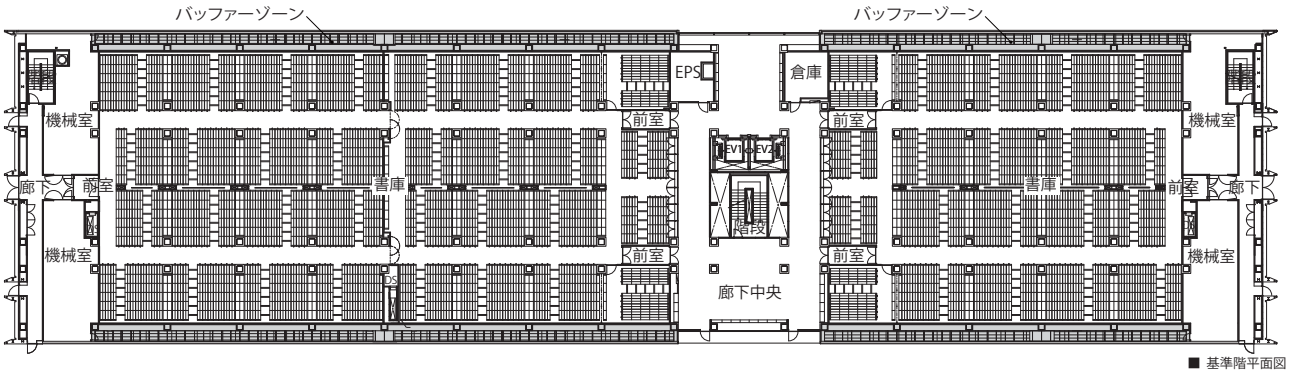
- 施設名称 / 国立国会図書館関西館新館（仮称）
- 所在地 / 京都府相楽郡精華町精華台8丁目1-3
- 地区地域 / 準工業地域、特別用途地区、第5種高度地区、法22条区域
- 主要用途 / 書庫
- 敷地面積 / 82,659㎡
- 延床面積 / 4,680㎡
- 構造形式 / 25,001㎡
- 階数 / 鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造
- 入居官署 / 国立国会図書館関西館
- 発注者 / 近畿地方整備局
- 設計者 / 株式会社日本設計
- 工事監理者 / 株式会社礎建築事務所
- 工事施工者 / 五洋建設株式会社
住友電設株式会社
大成設備株式会社



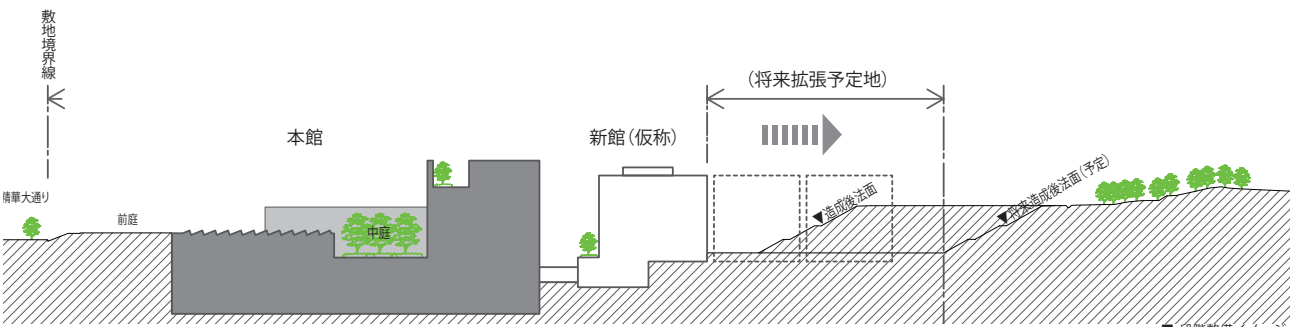
■断面図



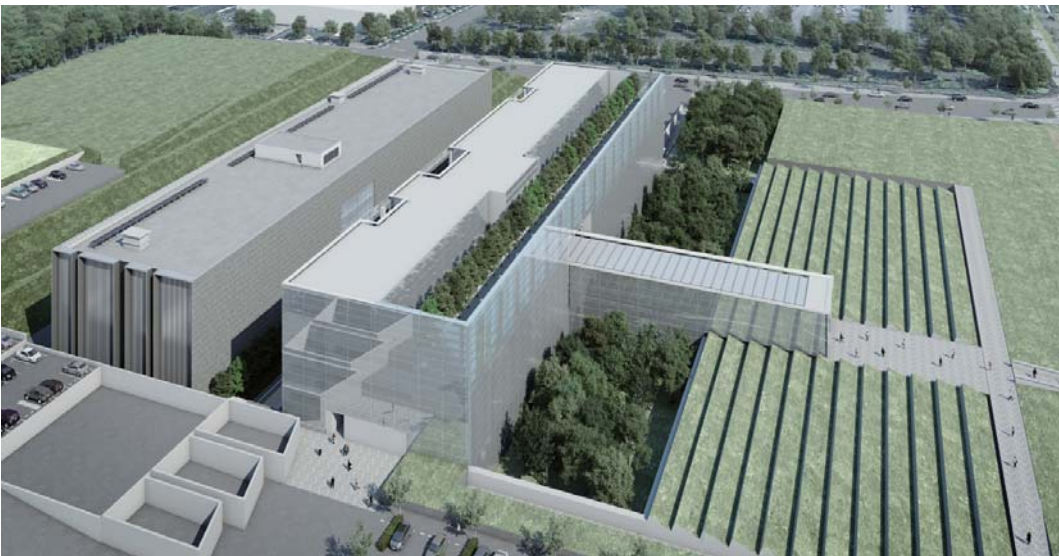
■配置図



■基準階平面図



■段階整備イメージ



■北東からの俯瞰イメージ



■東からの俯瞰イメージ

■機能面

- ・将来的な段階整備を見据えた動線と設備ルートを計画しています。
- ・本館との関係を考慮したゾーニングとし、明快な書庫エリアを形成しています。
- ・書架に応じた寸法でモジュール設定し、約500万冊の収蔵が可能な高密度書架配置計画としています。
- ・書庫内を室温22℃(±2℃)/湿度55%(±5%)を制御目標とし、適正な保存環境を保持した計画としています。
- ・将来的な書架の増設にも対応しやすいインフィル整備区分としています。

■安全面

- ・書庫には不活性ガス消火設備を設置することで初期消火による収蔵物への損傷に配慮しています。
- ・十分な靱性の確保と適切なブレース配置により、耐震性能の高い構造計画としています。
- ・本館と一元的な管理が可能となるよう防災センターを改修し、シンプルで明快なセキュリティラインを構築しています。
- ・構造の応答解析に応じた書架の耐震性能を設定し、書物の落下防止措置を講じています。
- ・地中に接する部分は全て外防水をすることで湧水の浸入対策をしています。

■環境面

- ・バッファゾーンを形成することにより外部負荷抑制に配慮しています。
- ・外断熱工法の採用、及びクールピットにより安定した地中熱を利用することで空調エネルギーの負荷抑制が可能となるよう配慮しています。
- ・雨水再利用設備を導入し、省資源化を図っています。
- ・建物運用上、適正な容量で太陽光発電設備を導入しています。
- ・LED照明、照明センサー制御を採用しています。

■景観面

- ・本館より高さを低く抑え、かつ幅を揃えることで従属的な関係として計画しています。
- ・本館ガラスキューブに正対した北側の一部をガラス壁面で構成し、作業エリアに自然採光を確保しています。
- ・繊細で重厚感のある外装とすることで本館との対比的調和を図っています。
- ・低層基礎部を屋上緑化することで既存共用部へ緑の潤いを与えています。